府中宿・府中コース　府中宿の中心を歩く ● 約2.5km

伝馬町通りは旧東海道です。横田に東見附があり、上伝馬、下伝馬にそれぞれ本陣、脇本陣が設けられ、問屋場、旅籠が43軒もある東海道最大規模の宿場でした。その道すがら、歩いてみましょう。

見付

横田町にあった府中宿の東見付は、12間四方の「コの字」の石垣が東海道を挟むように配置されていました。石垣の高さは5尺(153cm)で外側の土手の下には幅4間の堀が掘られていたそうです。

❶清水寺

今川8代守護大名氏輝の遺命により、永禄2年(1559年)家臣の朝比奈丹波守元長が創建しました。眺望が京都の清水寺に似ていたので、その名がつけられました。境内には、家康公が建立した観音堂をはじめ、薬師堂、聖天堂・霊牌、金比羅神社、熊野神社などがあり、観音堂は安土桃山時代の建築様式を伝え、昭和31年に県の文化財に指定されています。

規律の厳しい寺であるため、観音堂、薬師堂など、殿堂の一般公開はしていません。

❷西宮神社

福の神で商売繁盛の神「えびす様」を祀っています。毎年10月19、20日に行われる祭りは「おいべっさん」と呼ばれ、縁起物などを売る露店が立ち並び、大変な賑わいをみせます。このお祭りから冬支度を始まります。

❸華陽院

当初は「知源院」といい、家康公はこの寺の上人に手習いを学びました。つらい人質時代を愛情豊かに支えた外祖母源応尼(げんのうに)と7歳で亡くなった家康公の娘の市姫の墓があります。源応尼(げんのうに)が亡くなった時、戦場にいた家康公は、自分のかわりに三河松を託しました。残念ながらその松は昭和15年の大火で消失してしまいましたが、徳川家により二代目が植えられています。家康公は、50回忌を営んだ際、その法名である華陽院殿をもとに寺名を定め、以後参勤交代の際には各大名が必ず参詣をしたといいます。

❹久能街道

久能街道は久能や高松など駿河湾沿岸の集落との交易の道で、家康公が久能山に葬られてからは、参勤交代で往き来する西国の大名が東照宮参詣の為に通った道です。

❺宝泰寺

宝泰寺は、境内面積は1万㎡の敷地を有し、興津の清見寺、静岡の臨済寺と並び、駿河三刹と呼ばれていました。江戸時代朝鮮、琉球の使節が往来する際の休息・宿泊所として使われていました。宝泰寺には『わらべの庭』があり、40体もの『わらべ地蔵』がおられます。

❻珠賀美神社

主神のスサノオノミコトを祀り、除疫神として尊崇されていた。合祀もあり、健康の神、破邪の神、醸造の神ともなっている。

二基の石燈篭は、駿府随一の怪力彦四郎が久能山から担いできた天秤棒が折れて置き去りにしたものという言い伝えがある。

❼貫目改所跡

大名や寺院が委託する公用荷物の重さを量り、運賃を定める検問所のことであり、制限以上のものには割増金が課せられました。荷物を運ぶ伝馬役に負担がかからないようにする制度のひとつで、東海道では品川宿、府中宿、草津宿の3箇所に設けられていました。

❽西郷・山岡会見之史跡

山岡鉄舟、西郷隆盛　江戸城無血開城話し合いの場所です。慶応4年(1868年)官軍の江戸総攻撃が目前に迫るなか、勝海舟は使者・山岡鉄舟を西郷隆盛のいる静岡に派遣し、江戸城無血開城の交渉にあたらせました。途中官軍に追われた鉄舟を由比の望嶽亭が助け、江尻の次郎長が匿うなどドラマがありましたが、西郷・山岡の会見が実現し、日本は内乱の道を歩まずにすんでいます。

H30.3月 静岡二峠六宿街道観光協議会